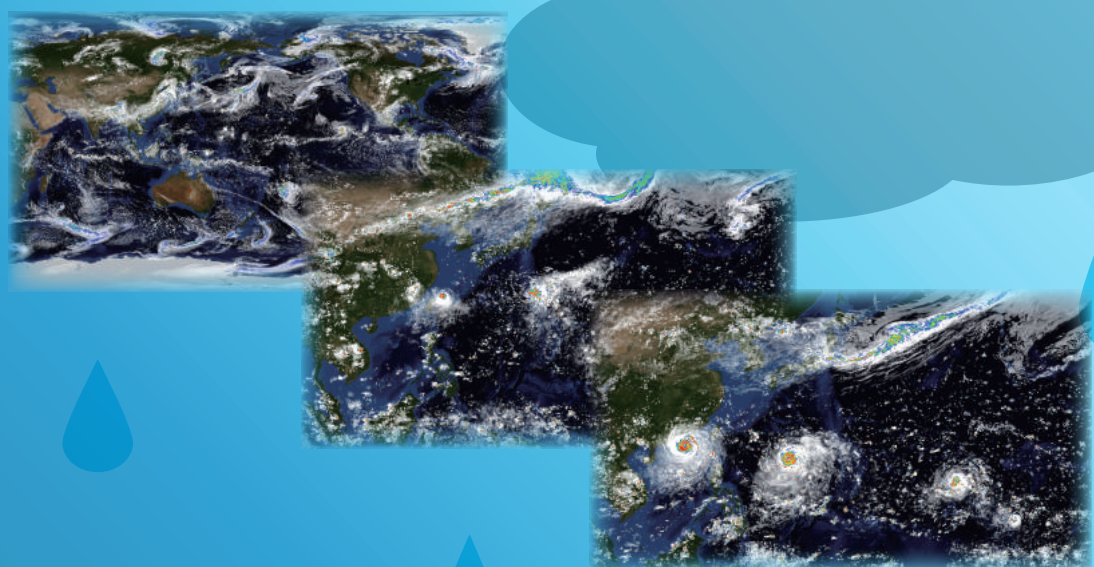
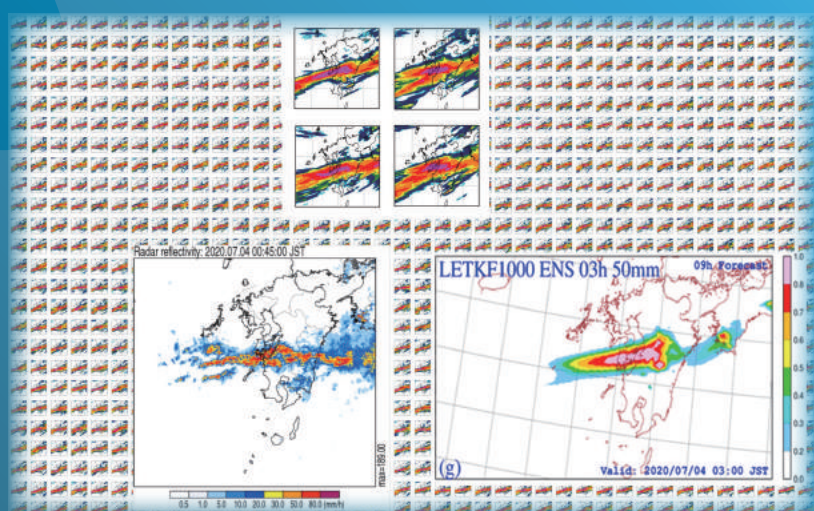
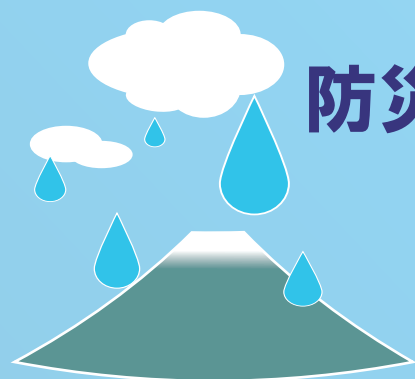


「富岳」成果創出加速プログラム

防災・減災に資する大アンサンブル気象・大気環境予測

第1回成果発表会



昨年の「令和2年7月豪雨」では、九州・中部地方を中心に多数の線状降水帯が発生し、広域に被害をもたらしました。近年、毎年のように、集中豪雨や台風が襲来し、河川の氾濫・洪水、暴風雨による激甚災害が頻発しています。本課題では、近年激甚化する集中豪雨等の極端気象現象からの防災・減災を実現するために、数日程度から数週間～季節スケールの大規模アンサンブルの気象・大気環境予測実験をスーパーコンピュータ「富岳」を用いて実施し、リードタイムをもった確率予測情報の提供が可能な新時代の予測技術の確立を目指します。気象災害の原因である集中豪雨や台風に対して、大規模アンサンブルの高解像度な気象・大気環境予測実験によって、避難・防災に資する確率予測情報の提供が可能な新時代の予測技術を確立することを目標とします。本成果発表会では、本課題の初年度の成果を報告します。

2021年3月16日(火) 13:00-17:00
参加無料・オンライン開催・事前申込み制

お申込み <https://cesd.ori.u-tokyo.ac.jp/fugaku/seika.html>

詳細・お申込みは上記アドレスにアクセス下さい。
※定員になり次第締め切らせていただきます。



主催 東京大学 大気海洋研究所
後援 一般財団法人 高度情報科学技術研究機構
お問合せ 東京大学大気海洋研究所「富岳課題事務局」 メールアドレス：fugakuatmos@gmail.com
ホームページ：https://cesd.ori.u-tokyo.ac.jp/fugaku/index.html

第1部 成果発表会 13:00-15:45

13:00-13:05 宅間 裕子 (文部科学省研究振興局参事官 (情報担当) 付 計算科学技術推進室長) ご挨拶

13:05-13:25 佐藤 正樹【課題代表】(東京大学 大気海洋研究所・教授)

「**防災・減災に資する新時代の大アンサンブル気象・大気環境予測**」課題の研究紹介」

テーマ1

13:25-13:35 川畑 拓矢【テーマ1代表】(気象研究所・室長 / 気象業務支援センター)

「**メソスケール気象予測の進展**」

13:35-13:50 小林 健一郎 (神戸大学 都市安全研究センター・准教授)

「**富岳による次世代型球磨川洪水予測**」

テーマ横断

13:50-14:00 三好 建正【テーマ横断代表】(理化学研究所 計算科学研究センター・チームリーダー)

「**ゲリラ豪雨予測のリアルタイム実験**」

14:00-14:10 寺崎 康児 (理化学研究所 計算科学研究センター・研究員)

「**全球水平解像度 56km・1024 メンバーの NICAM-LETKF を用いた令和 2 年 7 月豪雨の事例実験**」

14:10-14:20 休憩

テーマ2

14:20-14:35 宮川 知己【テーマ2代表】(東京大学 大気海洋研究所・准教授)

「**「全球スケール予測」の現状と展望**」

14:35-14:50 山田 洋平 (海洋研究開発機構 地球環境部門・特任研究員)

「**高解像度全球非静力学モデル NICAM を用いた 2019 年台風 15 号 1000 メンバーアンサンブル実験**」

テーマ3

14:50-15:15 八代 尚【テーマ3代表】(国立環境研究所 地球環境研究センター・主任研究員)

「**大規模データ同化技術研究と大気環境予測の進展**」

「**富岳を用いた 3.5km メッシュ・1024 アンサンブルデータ同化実験**」(ACM ゴードン・ベル賞ファイナリスト論文)

15:15-15:30 質疑応答

15:30-15:45 ポスター発表紹介



中野 満寿男
【司会】



佐藤 正樹



川畑 拓矢



小林 健一郎



三好 建正



寺崎 康児



宮川 知己



山田 洋平



八代 尚

第2部 ポスター発表 16:00-17:00

- James Taylor (理化学研究所): 「**Optimizing the localization scale for a convective-scale ensemble radar data assimilation system**」
- 雨宮 新 (理化学研究所): 「**2020 年夏季の Oakforest-PACS 部分占有利用による 30 秒更新 30 分降水予報のリアルタイム実験**」
- 前島 康光 (理化学研究所): 「**雷観測データ BOLT の同化に向けた観測演算子の設計調査**」
- 寺崎 康児 (理化学研究所): 「**全球水平解像度 56km・1024 メンバーの NICAM-LETKF を用いた令和 2 年 7 月豪雨の事例実験**」
- 小槻 峻司 (千葉大学): 「**深層学習を用いた降雨洪水氾濫モデル・エミュレータの開発**」
- 斉藤 和雄 (気象業務支援センター): 「**台風に伴う北向き非地衡風による遠隔降水の強化**」
- Le Duc (気象業務支援センター): 「**1000-member ensemble forecasts for extreme events: Typhoon Hagibis in 2019 and the July 2020 Kyushu heavy rain**」
- 佐藤 陽祐 (北海道大学): 「**気象雷モデルの開発と予測可能性～地上雷放電観測との比較から**」
- 大泉 伝 (気象研究所): 「**1000 メンバーアンサンブル予報を用いた洪水危険度予測**」
- 末松 環 (東京大学): 「**DYAMOND2 プロジェクト参加にあたり NICAM で再現された MJO とその雲微物理依存性について**」
- 田上 雅浩 (国立環境研究所): 「**同位体全球雲システム解像モデルの開発と検証**」